

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糺2264番地1		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果確定日	平成28年10月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年の開設以来、平成25年の新築移転を経て益々利用者にとって過しやすい施設になってきたと実感できることが我々職員のやりがいに繋がっています。利用者が健康でいきいきと自分らしく過ごせている事が、自然体で行えるようになるまで、試行錯誤と不安もありましたが、今となってはよき思い出であると思います。今後は、職員のスキルアップを図り、全員が高いレベルの介護提供ができるようにして、利用者にとって益々利便性の高い施設運営ができるよう努力したいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

やさしく思いやりがありよく気がつく真心のこもった支援で入居者をいきいきとさせることを理念に謳い、毎朝職員で唱和し、日々具現化に努めている。入居間もない方の家に帰りたいとの思いをそのまま受け入れ、ホームで穏やかな暮らしができるように支援したり、排泄行為を生活リハビリと捉え、時間毎に声かけや手引き、車イスでの誘導で、トイレで排泄できたり、紙オムツ等の使用量が軽減している。先日大事には至らなかったが、突然意識の低下やいびきをかくなどの重篤な症状が出現した入居者を、医療機関に救急搬送するなどの迅速な対応も行われ、医療機関との連携で看取りも予定している。近隣に住宅型や健康型ホームを整備し、夫婦で暮らせるように支援するなど、運営推進会議や地域の方々との交流を通じて、地域の多様な生活困難を支援するサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス 日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意義や達成に向けてのプロセス等職員に周知できるよう、機会がある毎に説明を行い、理解をしやすい工夫をしながら日々の業務に生かせる仕組みを作って実践している。	やさしく思いやりのある、よく気がつく真心のこもった支援で、入居者をいきいきとさせることを謳った理念を玄関や事務室に掲示し、職員は毎日唱和している。理念内容をその通りだが大変なことと受け止め、業務の前の心構えしていると職員は話した。	職員の年齢や経験などが異なることから、全職員で分かりやすく実践しやすい目標を作成し、さらなる理念の具現化を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館を通じて年中行事に参加することで、地域から活動内容の認知を得ている。	地域の夏祭りは、やぐら作りに職員が参加したり、入居者と見学したりしている。地域小学校の職場体験を受け入れ、入居者と交流した小学生からは、「楽しかった」との感想があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒予防教室の開催の際には、職員が意見を求められることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告の内容だけでなく、意見も生かしながら、業務に取り入れている。	運営推進会議の開催日時を家族に周知し、家族や地区民生委員、市職員等の参加で、定期的開催している。行事報告や取組みを報告し、参加者から意見を伺っている。家族からはここに入居できて安心しているとの言葉をいただいている。	運営推進会議設置目的を鑑み、会議録を事業所内で公表されることや、参加されていない家族にも会議内容の報告をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口担当者に保健師がおり、具体的な相談を行うケースがある。困難事例等医療機関所管の事例について意見を求め簡潔に繋がった事例がある。包括支援センターとも不定期に意見交換がある。	職員の健康診断の保健指導で来所した市保健師に、入居者の状況を相談したり、健康を促進する食べ物や献立の指導をお願いしている。民生委員の来訪もあり、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で周知を図り、理解を深め防止を徹底している。	市主催の身体拘束に関する研修に参加した職員から、「だめ」などの言葉も拘束にあたること分かったとの感想があった。夕方帰宅願望のある入居者に、何とか明日にでももらえないかと話したり昼間の散歩で紛らわせるなど、拘束をしないケアに励んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で周知を図り、理解を深め防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等での解説を行っているが活用には至っていない。相談ができる行政の窓口等が掲載されたパンフレットを用意しており、それを説明するようにしている。	随時活用できるように、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレット等は整備しているが、現在まで利用者はいない。系列事業所では制度の利用者もあるため、管理者は制度内容を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全利用者へ行っており、問題はない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体・生活状況等家族に説明をする際、意見や希望を伺い、運営に活かす事を実践できている。	現在の場所に移転以来、家族の訪問が増え、意見を聞く機会が多くなっているが、職員の対応への謝辞が多い。日用品の購入については、その都度家族に連絡し、了解を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の会議の際には、広く意見を言える機会を設けて実際に活用できている。	毎月定期的なミーティングで、行事の振り返りや今後の予定、職員の気づきなどを話し合い、レクリエーション担当が自主的に、車でのドライブや買い物など企画し実行している。管理者は夜勤専従職員の意見を聞くために、毎月時間を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件は、代表者と職員との話し合いの機会を持ち賃金改善や総労働時間の短縮に向けて検討を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用選考において各自の条件を先入観なく公平に判断を行っている。	ハローワークや民間の求人誌を活用しているが、採用資格は設けていない。面接時に就労できる時間帯等についてすり合わせするが、3か月の試用期間は労使双方にとって、就労が継続できるかを見極める有意義な期間となっている。資格取得や研修参加を推奨し、費用の補填を行っている。昼休み時間に車で外出する職員もあり、働きやすい職場づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等の機会に行っている。	DVDを活用して事業所内で人権研修を行っている。管理者は、職員の入居者に対する言動が年配者を敬い「人」として対応しているかを、具体的に指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会に行っている。外部研修の受講や資格の取得等についても積極的に支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区の同業者交流会への参加を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の申し込み段階からインテークアセスメントを実施し、早い段階からより多くの情報の取得を行うよう留意している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安の解消を念頭に、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の申し込み段階において得られた情報をもとに、行政や医療機関とも密接に連携しながら、最適な方法を模索している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力やメンタルに応じて、暮らしを共にする適切な関わり方を模索し、提供している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いにより、できる限りの支援を要請し、関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や旧友との連絡・訪問も途切れることの無いように支援している。	近隣の系列施設に入居者の夫が入居されたことから、夫婦で暮らせるようにホームからの転居を支援している。家族の来訪時は、心地よく過ごせるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちし、利用者同士の関係を考慮しながら、お互いが支援できるよう工夫しながらおこなっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後のフォローはもちろん、自宅復帰の方においても、定期的に訪問するなど、関係が切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表面的な意向に左右されず、内面的な意向を斟酌し、提供・実現に繋げている。	アセスメントやフェイスシートを整備している。日々入居者の言動の背後にある思いや感情を把握しながら、入居者のさらなる意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	詳細なアセスメントにおいて、綿密に実施できている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細なアセスメントにおいて、綿密に実施できている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日々の利用者の状況や家族と接した時の意見、その他の広汎な状況を総合して、介護計画に反映させている。	入居間もない方の家に帰りたいとの思いをそのまま受け入れ、ホームで穏やかな暮らしができる介護計画が作成され、1ヶ月後の担当者会議でサービス内容を検討している。下肢筋力低下を防止するために、廊下の手すりでの膝の屈伸運動をしたり、車イスの入居者も排泄や入浴時には手すりを持って立ってもらうなど、其々に個別性のある計画を作成している。	具体的なサービス内容の記載があるので、短期目標に入居者のBPSDを軽減する環境づくりを挙げてはいかがでしょうか。BPSDは、入居者の生活しづらさのサインだとの受け止めを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートにより、観察・把握し、介護計画にフィードバックする体制である。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の案件について、常に検討し実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別の案件について、常に検討し実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緻密な意向の把握を行い、医療機関との連携も図りつつ、実践できている。	入居前からのかかりつけ医に、2名の入居者が家族と受診している。訪問看護や提携医療機関とは十分な連携が取れ、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期の契約段階で概ねの意向把握を行い、健康状態に応じて具体的な提言を行っている。	先日突然意識の低下やいびきをかくななどの重篤な症状が出現した入居者があり、しばらくして症状は軽減したものの、症状の予測ができないため、医療機関に救急搬送している。現在まで看取りはない。系列ホームでは、看取りを希望した家族が急遽救急車搬送を希望されたこともあり、その都度家族に連絡し、意向を伺っている。また、入居後の病状の変化を家族がに理解できない事もあり、入居当初の症状を家族に振り返っていただくようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修等で救命の基礎知識を習得するとともに、個別に外部研修やADLの訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時行動計画を立案し、行政への届け出を行っている。	年2回、避難訓練を実施している。今年4月には地元消防団の協力で、水消火器を使った訓練を実施したが、10月は消防署指導で夜間を想定した訓練を予定している。現ホームに移転以来、防火のため布製のカーテンではなく、ロールカーテンを使用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切に対応できている。	入居者に「可愛い」と言ったり、過剰なボディタッチは入居者の尊厳を損ねることを、管理者は適宜指導している。理念に謳った、気がきく真心を持ったケアとは何かを、日ごろのケアで具現化できるように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断がつかない利用者にも、選択してもらいながら希望を尊重するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね本人のペースで過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や身だしなみ等、本人の意向を考慮しながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成しているが、個々人の食べたいものを広く聞き取りし、実際に提供している。準備や片づけ等もできる方には積極的に行ってもらっている。	入居者の心身の状況に応じてテーブルを分けて食事をしている。職員の見守りや声かけ、介助を受けながら、其々のペースで完食している。引き膳や食器洗い、食器拭きをする入居者もあり、手際の良さに調査員は驚嘆した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態・嗜好に配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後の口腔ケアを欠かさずに行っている。定期的に訪問歯科医のケアを受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助を積極的に行い、成果が出ている。	排泄行為を生活リハビリと捉え、入居者の排泄パターンに配慮しながら、時間毎に声かけや手引き、車イスでトイレに誘導している。トイレで排泄できるようになったり、紙オムツ等の使用の軽減にもなるなど、成果が上がっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を多く促し、運動と水分にて自然排便を企図して実施している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日はおおむね決めているが、本人の意思を尊重した時間帯に行っている。	週3回、午前中に入浴を支援している。明るい浴室は、広めの個浴槽やシャワーチェアが整備されている。職員一人の介助で入浴ができるように、車椅子の入居者も日頃から立位訓練を支援している。入浴を拒否される場合は、時間をずらして声かけをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりした時間の過ごしやすさがあり、安眠の確保に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則として、個々人の薬の手帳を活用し、服薬の把握とその効能を理解し、変化を記録して医療機関と連携できている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の支援もあり、外出は活発に行えている。	車イスの入居者もあるが、ほぼ毎日、全入居者が帽子を被って外出し、外気浴をしている。職員の買い出しに同行したり、家族が受診に同行し、ショッピングや買い物をする入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の所持金はない。ホームの買い物で出かけた時は、レジの支払は利用者にしてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、季節の贈答品のお礼状等可能な限り支援している。電話は使用していない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や安心感を得られるように工夫し、居心地に配慮している。	玄関にはスロープが設置され、ホーム全体が段差のないバリアフリーとなっている。玄関には椅子に座って靴を脱げるように長椅子が設置されている。広く明るい共用空間は椅子やテーブル、ソファや大型テレビが置かれ、対面式厨房からホーム全体が見渡せる。共有空間で体操やレクリエーションが行われ、広い廊下は散歩などの機能訓練の場となっている。ソファの定位置で寛ぐ入居者もいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が、各自の思いで過ごせるようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行えている。	各居室入口の壁には、大きな印字で名前が掲示されている。ベットに可愛いぬいぐるみを置いたり、筆筒の上に両親の写真が飾られ、誕生日を壁に貼った居室もあり、居心地良く過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行えている。		